

氏名	中村裕美	部署	作業療法学科	職名	教授
研究分野	作業療法理論, 高齢期作業療法学, 地域作業療法学				
学位	博士				
学歴	1987年現信州大学医学部保健学科作業療法専攻(旧信州大学短期大学部作業療法学科)卒業 2004年東京都立保健科学大学(現 東京都立大学)博士前期課程保健科学研究科修了(修士第24号(作業療法学)) 2009年首都大学東京(現 東京都立大学)人間健康科学研究科人間健康科学専攻作業療法科領域 博士号取得(健博第10号, 首都大学東京)				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科講師 2011年埼玉県立大学大学院博士前期課程リハビリテーション学専修特別研究補助指導教員 2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科准教授、埼玉県立大学大学院博士前期課程リハビリテーション学専修特別研究指導教員 2014年埼玉県立大学大学院博士後期課程指導教員 2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科教授				
所属学会(役職)	QS Intelligence Unit for QS World University of the annual QS Global Academic Survey (Reviewer), British Journal of Occupational Therapy (Editorial board member), The College of Occupational Therapist annual congress and expo (Reviewer), The Evaluation and the Health Professions (Reviewer), Health and Quality of Life Outcomes (Reviewer), BMC Nursing (Reviewer), MDM Policy and Practice (Reviewer), Occupational Therapy International (Reviewer), Japan Journal of Nursing Science (Reviewer), 日本作業療法士協会学術誌作業療法(査読委員), 日本作業療法士協会学術集会(演題査読委員)				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Psychometric properties of the School Participation Questionnaire: Testing a measure of participation-related constructs	共著	あり	○ Developmental Medicine & Child Neurology (Online first)	Maciver D, Tyagi V, Johnston L, Kramer JM, Richmond J, Todorova L, Romero-Ayuso D, <b>Nakamura-Thomas H</b> , van Hartingsveldt M, O'Hare A, Forsyth K	2022 January 31st
2	Development and Trial of a Prototype Device for Sensorimotor Therapy in Patients with Distal Radius Fractures	共著	あり	○ Applied Sciences 12(4) <a href="https://doi.org/10.3090/app12041967">https://doi.org/10.3090/app12041967</a>	Narita D, Hamaguchi T, <b>Hakamura-Thomas H</b>	2022 February 14th
3	Japanese preference weights of the Adult Social Care Outcomes Toolkit for Carers (ASCOT-Carer)	共著	あり	○ Quality of Life Research (Online first)	Shiroiwa T, <b>Nakamura-Thomas H</b> , Yamaguchi M, Morikawa M, Moriyama Y, Fukuda T, Allan S, Malley J	2022 January 12th
4	Assessing the Structural Characteristics of the Japanese Version of the Adult Social Care Outcomes Toolkit for Carers	共著	あり	○ Home Health Care Management & Practice 34(1):17-23	<b>Nakamura-Thomas H</b> , Yamaguchi M, Yamaguchi I, Rand S	2022 January
5	Mechanism of the Developed Sensorimotor Therapy Device: Synchronous Inputs of Visual Stimuli and Vibration to Improve Recovery of Distal Radius Fractures	共著	あり	○ BioMedical Journal of Scientific & Technical Research 38(2) <a href="https://doi.org/10.26717/BJSTR.2021.38.006120">https://doi.org/10.26717/BJSTR.2021.38.006120</a>	Hamaguchi T, <b>Hakamura-Thomas H</b>	2021 August 18th
6	Determinants of school attendance in elementary school students in Japan: a structural equation model	共著	あり	○ Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health 18(38) <a href="https://doi.org/10.1186/s13034-021-00391-5">https://doi.org/10.1186/s13034-021-00391-5</a>	<b>Nakamura-Thomas H</b> , Sano N, Maciver D	2021 July 31st
7	Effectiveness of using assistive technology for time orientation and memory, in older adults with or without dementia	共著	あり	○ Disability and rehabilitation. Assistive technology 16(5): 472-478	Nishiura Y, Nihei M, <b>Nakamura-Thomas H</b> , Inoue T	2021 July
8	Efficacy of attention bias modification combined with cognitivebehavioral therapy for reducing anxiety in patients with hematopoieticmalignancies: a quasi-randomized controlled trial	共著	あり	○ Journal of Affective Disorders Reports <a href="https://doi.org/10.1016/j.adr.2021.100122">https://doi.org/10.1016/j.adr.2021.100122</a>	Koizumi K, Hamaguchi T, Tayama J, Ishioka T, <b>Nakamura-Thomas H</b> , Koike Y, Nakaya N, Konno M, Makita S	2021 April

(3) 学会発表					
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	要介護高齢者とその介護者の日本語版 ASCOT による社会的ケア関連QOLの関連 (poster)	共同	第80回日本公衆衛生学会 東京都	森山葉子, 森川美絵, 白岩 健, ○中村裕美, 田宮菜奈子, 高橋秀人	2021 December 21st
2	通学認識に関連する要因の探索的解明：小学5年生6841名の横断的調査 (口述スペシャルセッション優秀賞対象)	共同	第55回日本作業療法学会 仙台市	○中村裕美, 森正樹, 上原美子, 森田満理子, 佐野伸之	2021 September 10th
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	社会的ケアを要する高齢者の在宅生活維持に資するQOL規定因子の実証的解明	研究代表者	2020.4～2024.3	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）	地域包括ケアのアウトカムとしてのケア関連QOLの測定と応用に関する研究	研究分担者	2020.4～2024.3	
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	軽度認知障害から正常状態への回復を促進する包括的な役割・環境支援プログラムの開発	研究分担者	2018.4～2022.3	
4	National Research Foundation of Korea (NRF)	Developing and Comparing a Cross-National Disability Measure for Older Adult Populations across Korea, China and Japan	研究分担者	2021.1～2025.12	
5	公益財団法人 三井住友海上福祉財団 2021年度 研究助成	高齢者入所施設の専門職の勤労者役割遂行に関連する要因の解明	研究代表者	2021.11～2022.12	
6	公益財団法人 太陽生命厚生財団 2021年度 調査研究助成	脳卒中在宅要介護者と介護役割を担う配偶者のQOLの相互関係の解明	研究分担者	2021.10～2022.12	
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	高齢期作業療法学	○	7	感染症対策の徹底から 遠隔システムを用いた授業とした 指定した教材のうち授業担当者が執筆した章を詳細に説明した	
2	保健医療福祉学際英語（大学院博士前期課程）	○	12	履修者の研究テーマに即して教材を構築し 履修者の質問や要望に沿う形式で実施した	
3	リハビリテーション基盤実践学特論（大学院博士前期課程）		5	アップデートされた国際指針に基づき 研究デザインに注力した授業を展開した	
4	IPW論（専門職連携実践論）②（大学院博士前期課程）	○	8	科目責任者として分担者の授業も含めて 授業担当者の直近の刊行論文をマテリアルとして用い クライアントのアウトカムを改善するための手段としての多職種連携のあり方を紹介した	
5	行動神経作業療法学特論（大学院博士前期課程）		5	国際学術誌から質の高い論文を教材に用いて 研究デザインと解析方法に焦点化して概説した	
6	心身機能作業療法論（大学院博士前期課程）		5	国際学術誌から質の高い論文を教材に用いて 研究デザインと解析方法に焦点化して概説した	
7	IPWシステム開発論（専門職連携実践論）②（大学院博士後期課程）	○	8	科目責任者として分担者の授業も含めて 授業担当者の直近の刊行論文をマテリアルとして用い クライアントのアウトカムを改善するための手段としての多職種連携による論文刊行を説明した	

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨床作業療法学技能演習	○	30	感染症対策を徹底した演習を行い 臨床家を登用した客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE)を運営した 当該科目では作業療法学科として唯一している科目であり教材もオリジナルを構築して毎年精練している
2	高齢期作業療法学演習	○	15	高齢期のクライアントの大半が認知機能障がい呈している現状に鑑み 認知機能障がいをもつ人々への作業療法の時間を倍増させた
3	IPW演習		15	他大学の医学部学生も参加したため その学生が疎外感を感じない様ファシリテーションを行った また遠隔対応となったため 学生が時間を有効活用できるように かつ学生が主体的に取り組めるよう支援した
4	リハビリテーション学演習 (行動神経作業療法学) (大学院博士前期課程)		5	国際学術誌から質の高い論文を演習の教材に用い 履修者がトレースできるようにマテリアルを構築した
5	心身機能作業療法演習 (大学院博士後期課程)		5	国際学術誌から質の高い論文を演習の教材に用い 履修者がトレースできるようにマテリアルを構築した
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習: 期間 学内実習: コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	臨地体験実習 (高齢期・発達期)	○	2021.4.1-2022.3.17	COVID19の影響により種々の配属形態が生じた そして臨地実習組織への配属が中断となった学生に対する代替措置として 臨床家を複数登用し 学習コンテンツを作成した なお臨地実習終了後の事例検討会には 臨床家と協業して作成した事例を用い グループ毎に異なる事例を検討した
2	臨地実習 II-1 (身体機能領域)		2021.4-8	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った
3	臨地実習 II-2 (精神機能領域)		2021.4-8	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った 実習終了後のセミナーでは学生の発表内容やレポートに即して成績評定を担当した
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文	2021.4~2022.3	主指導 (指導教員) 1	副指導 (指導補助教員) 0
2	博士論文	2021.4~2022.3	主指導 (指導教員) 1	副指導 (指導補助教員) 1
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	博士後期課程特別研究	2021.4~2022.3	博士後期課程学位審査会 主査	
2	博士前期課程特別研究	2021.4~2022.3	博士前期課程学位審査会 主査	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	2021年度教員免許状更新研修会	地域産学連携センター	子どもの個性を認めるかわり	2021July
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	越谷市介護給付等の支給に関する審査会	委員	2021.4~2022.3	
2	豊島区WHOセーフコミュニティ推進室	オブザーバー	2021.4~2022.3	
3	QS Intelligence Unit for QS World University of the annual QS Global Academic Survey	評価委員	2021.4~2022.3	
4	British Journal of Occupational Therapy	国際学術誌編集委員	2021.4~2022.3	
5	The College of Occupational Therapist annual congress and expo	英国作業療法士協会年次学術集会演題査読委員	2021.4~2022.3	
6	日本作業療法士協会学術誌作業療法	査読者	2021.4~2022.3	

7	日本作業療法士協会学術集会	作業療法士協会年次学術集会演題査読委員	2021.4～2022.3
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	入学試験のために任命された役割の遂行	2021
2	全学的委員会及びセンター業務等	院試のために任命された役割の遂行	2021
3	全学的委員会及びセンター業務等	大学院教務委員会委員として 特に大学院審査会の在り方や 教員や院生に 投稿先として奨励できる国際学術誌リストを提案した	2021
4	全学的委員会及びセンター業務等	研究推進委員会委員として会議に参加した	2021
5	国際交流活動	担当する香港理工大学とZurich University Applied Sciences(ZHAW) の担 当者との情報交換に努め 会議に参加した	2021
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	第55回日本作業療法学会 優秀演題賞	日本作業療法士協会	2021.9.10
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			